



行動する環境アドバイザーの会報

GREEN ニュース

第92号 2023年

環境アドバイザー連絡協議会
第12期 代表 西村 豊
令和5年4月発行
創刊 平成5年7月16日



タチツボスミレ 庭の片隅で人知れず咲く草花ですが、この植物とアリとの関係は良く知られています。スミレの種子はアリが好む物質を含み、アリに運ばれて庭のあちこちに種をまき散らすことができます。私たち人間も他の多くの生物とかかわりあって生きています。この小さなスミレから生物多様性の意義を学ぶことができそうです。

群馬県環境アドバイザーの登録状況（2022年12月28日現在）

第12期（登録期間：2021年4月1日～2024年3月31日）の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計350名です。自然環境部会145名、温暖化・エネルギー部会111名、ごみ部会90名、広報委員会33名が登録し活動されています。

群馬県の環境情報サイトに、環境アドバイザーのページ開設

目次

- P2 令和5年度 環境（温暖化防止）関連リンク集です！
- P3 地域の環境保護に取り組んで22年
- P4 温暖化エネルギー部会報告
- P5 ゴミ部会報告
- P6 小川晶様とのお話会 実施報告
- P7 楽しく学ぶ親子環境学習
- P8 給水スポットだけでなく容器スポット協力店舗登録も始まりました

令和5年度 環境(温暖化防止)関連リンク集です！

群馬県 環境森林部
環境政策課 環境政策係

新年度が始まりました。今年も各地で見事な桜が咲き誇り、久しぶりの「日本伝統のお花見」を満喫された方々も多かったのではないのでしょうか。新緑を目に、あらためて日々の日常を幸せに思う今日この頃ではありますが…迫り来る「夏！」を感じざるを得ない季節でもあります。

「動く環境教室」でSDGsを学習する学校が増えてきました。授業の最後に「まったなしです！地球温暖化防止に最優先で取り組みましょう！！」と伝えています。小さな行動の積み重ねが、大きな成果となって世界は変わっていく、そんな意識の改革を子どもたちは目を輝かせて実践しています。



(R5. 2. 14 安中市立原市小学校)

「ひとりひとりができること、ちょっと関心を持って行動すれば、きっと素敵な未来が訪れる」そんな思いを込めて、群馬県のホームページには様々なお役立ちページ&リンクをご用意しています。また、温暖化・エネルギー部会より関連した外部リンクを紹介していただきました。ぜひご覧いただき、ご興味をお持ちいただけましたら幸いです。



※群馬県ホームページより

●群馬県における地球温暖化対策

●家庭部門の温暖化対策「ぐんまエコスタイル」

<https://www.pref.gunma.jp/page/6294.html>

●ぐんまクールシェア 2023

●環境にやさしい買い物スタイル

<https://www.pref.gunma.jp/page/5724.html>

<https://www.pref.gunma.jp/page/6555.html>

※温暖化防止関連外部リンク

・全国地球温暖化防止活動推進センター

<https://www.jccca.org/>

・気候ネットワーク

<https://www.kiconet.org/>

・国連広報センター

<https://www.unic.or.jp/>

・公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES: アイジェス)

<https://www.iges.or.jp/jp>

・国際環境 NGO FoE Japan

<https://foe.japan.org/>

地域の環境保護に取り組んで22年

副代表 宗 義彦

平成13年に先輩の初代代表の新井栄一氏に誘われ環境アドバイザーに登録して、地区の会員の会合で、「南橋の自然観察会と環境を守る会」を立ち上げる話が出て賛同して入会しました。初代会長に片山満秋氏になっていただき、南橋地域の河川や里山の観察会を始めました。地域の皆様に声をかけ30名以上の方が会員となっていただき、年3回の一般募集

の観察会と、会員対象の観察会を開催してきました。県の環境学習推進事業の助成金を活用し田口町の橘山、南橋地区を流れる桃ノ木川、富士見町と川端町にある九十九山のガイドマップを作成して、観察会に参加された方、地区の諸団体、学校に配布して活用していただきました。桃ノ木川に生息していたアオハダトンボ調査や桃ノ木川の生物調査、赤城白川河川敷の清掃活動と水生生物調査、敷島公園の冬鳥の観察会と調査などを続けて、活動報告書も23号になりました。

アオハダトンボ調査では近年観察区域で見かけなくなり、バイカモの影も見当らなくなりました。河川の改修工事や国道の開通、その他商業施設開発事業で消滅したか、他の地域に移ったかまだ分かりませんが調査を続けたいと思っています。

近年コロナ禍での観察会には参加者は少なくなりましたが、1月の観察会には40名を超す方が参加してくれました。地道な活動ですが評価され、平成26年には「地域環境保全功労者」の環境大臣表彰をいただきました。

初代会長の片山氏の遺志を継いで今後も地域の方々と一緒になって活動して行きたいと考えています。

参考：

※桃ノ木川観察区間「八幡橋～薬師橋」の アオハダトンボとハグロトンボの確認数

アオハダトンボ 2006年 97匹・年々減少して2020年 0匹

ハグロトンボ 2006年 38匹・2016年をピークに2020年 1匹

※堤防や河川敷の外来種

アカバナユウゲショウ、アレチウリ、イタチハギ、イモカタバミ、オオブタクサ、コセンダングサ、クワイモ、コツマヨイクサ、シロツメクサ、シバンモロコシ、ゼニアオイ、ヒメジョオン、ビロードモウズイカ、マメグンバイナズナ、ムラサキツユクサ、ヨウシュウヤマゴボウ等が観察されました。

ゴミ部会前年度活動報告

ごみ部会 山田一朗

日付	参加者数	テーマ他
4月19日	9名	年初 プラ新法施行、リフィルぐんま、ガラスリサイクル等について
5月17日	5名	プラごみ0宣言勉強会、プラ新法、ガラスリサイクル説明会開催を決める
6月14日	10名	ガラスリソーシング説明会 ガラスリソーシング(株)社員
7月14日	2名	流会 (参加者2名のため) 雑談
8月17日	6名	プラごみ0宣言勉強会の準備他
9月21日	19名	出前なんでも講座プラごみ0宣言勉強会 廃り課職員 連絡協議会と共催
10月12日	6名	出前講座振り返り、部会で取り組みたいことについて
11月16日	4名	環境フェスティバル、前橋リユース活動、取り組みたいこと等 次回休会決定
12月		休会 (参加者多忙)
1月14日	5名	部会で取り組みたいこと コンポスターのワークショップ開催を決める
2月14日	13名	WS私の生ごみ対策 (コンポスターの使い方) 井上金治氏
3月11日	8名	年度末 令和4年度振り返り

令和3年度は新型コロナの影響で会場が使えず、半年近く部会の中止を余儀なくされました。令和4年度は会議時間や定員の半減規制など多くの対策をとりながら、なんとか開催することができました。しかし7月は参加者少数により流会となり、12月は自主休会することになりました。一方でコミュニティツールとして、グループLINEごみ部会(環境アドバイザー)を立ち上げました。また部会の開催スケジュールを偶数月は第2火曜日、奇数月は第2土曜日のいずれも午後2時からとしました。ペットボトルの使用を減らすと言う観点から、部会としてリフィル運動に取り組むこととして担当を決めました。令和4年度に部会として取り組んだイベントは三つあり①ガラスリソーシング(株)社員によるガラス陶磁器の再利用プログラム説明会②連絡協議会と共催で開催した出前なんでも講座プラごみ0宣言勉強会③ワークショップ私の生ごみ対策(コンポスターの使い方)どれも好評でした。令和5年度も引き続き、誰でも気軽に参加できるごみ部会を目指して頑張りたいと思います。

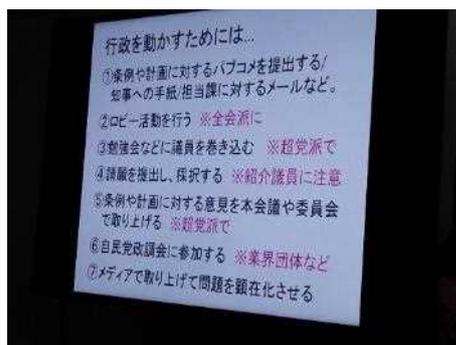
小川晶様とのお話会 実施報告

温暖化・エネルギー部会 国安俊夫

温暖化・エネルギー部会では「ぐんま5つのゼロ宣言条例」に関して、R3年11月に県の出前授業を使い、行政からの説明と意見交換を行い、またR4年9月には弁護士会にお願いして条例の読み方の講演会と温暖化対策ロードマップ作りのワークショップを行ってきました。そして3月の定例会で、我々の理想とすることの実現に向け、条例制定など行政を動かすには、議会に働きかけることも重要だがどうしてもよいかかわからないため、弁護士で県議会議員でもある小川晶様にお話をお願いしたらどうかと思いこれを企画提案しました。

小川様からは「ぐんま5つのゼロ宣言を実現するために」という表題で、自己紹介、これまでの活動などをざっとお話しいただいたのち、県の環境政策などについての概略・予定、国の動きとからんだ県の動き、行政を動かすための効果的な方法と事例紹介、これから取り組みたいことなどのお話があり、その後質疑や意見交換を行いました。

最近の定例会の出席者は10名前後で推移していましたが、会場の人数制限も緩和され、今回初めて定例会に参加された方も含め15名の参加者があり、活発な質問や意見が出、時間切れとなり、小川様からは最後に「こんなに意見が出るなら、また他の議員も誘って勉強会ができればと思います」との挨拶をいただきました。



楽しく学ぶ親子環境学習

生きものたちの庭ガーデンクラブ 井上金治

私たちは生物との共生をめざしたガーデン、生きものたちの庭を開発している。このガーデンにおいて昨年、群馬県地域環境学習支援事業に採択され親子環境教室を行った。

第一回（10月15日）は生きものたちを呼ぶ庭づくりをテーマにした。この回は生物多様性の意義を学び、地球規模で進行しつつある生物種の大量絶滅について考えることを目的とした。生物多様性を維持するためには“遺伝子の多様性”、“種の多様性”、“生物の生活する環境の多様性”を守る必要がある。例えば同じ生物種でも多様な遺伝子を持つことにより病気や環境の変化に有利になる。この中でガーデンにあるハシバミやウグイスカグラを例にし、これらの植物は自家受粉を避け、自ら遺伝子の多様性を守る仕組みがあることを話した。



ガーデンの様子を説明

自宅の庭でも生物多様性を守る活動ができる。生きものたちの庭では殺虫剤や除草剤を使用せず、枯れ木や石を積んで生物の隠れ場を作るなど生物と共生できる工夫をしていることを紹介した。最後にドングリやルッコラの種を蒔き、各自持ち帰って観察するようにした。

第二回（11月26日）は循環とたい肥の役割をテーマにした。現代社会は多量のプラスチックゴミや二酸化炭素を排出し環境を悪化している。これに対し、かつて日本人は自然の材料を使って道具を作り、木を燃料にして生活してきた。このような生活では全てのものが循環し、環境を悪化させることはない。環境に優しい暮らし方として、ソーラークッカーやソーラー発電、薪を使用した調理や発電も体験学習した。

この回では森林の役割についても紹介した。森林では全てのものが健全に循環している。例えば木が枯れると様々な生物により分解して土に還る。特に、木材に含まれるセルロースやリグニンの分解にはキノコの菌糸が活躍する。この事を学ぶために丸太にヒラタケの種ゴマを植菌し、各自持ち帰ってキノコができる様子を観察させるようにした。また、キノコの菌糸で分解された古い櫓木（ほだぎ）を足で踏み、木が土に還ることを体験させた。家庭で出る生ごみや落ち葉もたい肥にするとゴミを出さない生活ができる。実際にガーデンで作られているたい肥を見学し、循環とは何かを学ぶようにした。

2回の学習は比較的高度な内容を含むものもあったが、子供たちは真剣に取り組んでくれた。この学習において子供たちは環境に対して驚くほど高い関心を持つことを知った。私たちは若い世代に美しい環境を残すため一層の努力が必要なことを痛感した。



ソーラークッカーの説明



キノコによって朽ちた木を踏んで土に戻す

給水スポットだけでなく容器スポット協力店舗登録も始まりました

Refillの意味「再び満たす」は、水だけではなく食材・フードなどの容器にも。コロナ禍では外食できずにテイクアウトが増え、そのぶん容器のプラごみが増えました。ごみが増えて困ったと思われていた方も多いことでしょう。Refillの活動は、プラごみ削減と温暖化防止、持続可能なライフスタイル実現の第一歩となります。持参したマイ容器に Refill することで、使い捨て容器の消費を減らし、環境負荷の低減と魅力的なまちづくりを目指します。

飲食店のテイクアウトフードやドリンク、量り売りのお惣菜や調味料、洗剤やシャンプー等を、使い捨て容器で提供するのではなく、お客様が持参した容器（マイ容器）に提供してくれる店舗を探しています。該当する店舗がありましたら、ぜひ Refill ぐんままで情報をお寄せください！

公共給水スポット登録数 410 カ所

給水スポット協力登録店 29 店舗

容器スポット協力登録店 8 店舗

(2023.3.18 現在)



一緒に活動したい、紹介したい店舗がある、などの情報・お問合せ先はメールでお願いいたします

Refill ぐんま代表メールアドレス： gunmarefill@gmail.com

Refill ぐんま (Refill Japan 群馬県活動窓口団体：環境アドバイザー温暖化・エネルギー部会)

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース (GN) は年4回発行します。各号のレイアウトは3月、6月、9月、12月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp